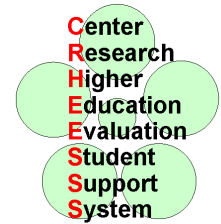


週刊センターニュース No.336



第336号(2010年12月9日)木曜日発行
発行: 金沢大学 大学教育開発・支援センター
URL: <http://www.rche-kanazawa-u.jp/>

○●○ 社会的ネットワーク分析ワークショップ参加報告 ○●○

去る11月20日(土曜日)に東京大学本郷キャンパス 情報学環・福武ホールにて、日本教育工学会主催(外国語教育メディア学会共催・東京大学大学院ベネッセ先端教育技術学講座協賛)社会的ネットワーク分析ワークショップが開催された。近年、「学習は知識伝達と記憶という個人の経験に閉じたものだけではなく、日常生活や状況に埋め込まれたものであり、人や道具との相互作用、参加しているコミュニティへのアクセスや参加過程」という学習観が広がりを見せている中、電子掲示板、チャット、SNS、Twitterといったソーシャルメディアと総称されるコミュニケーションを中心としたシステムを利用した教育・学習環境が世界的に使用されるようになった。その際、1つ課題となるのが、評価である。ソーシャルメディアを使った学習では単にパフォーマンスが上がったというだけではなく、学習プロセスも評価対象となる。その評価法の1つとして社会的ネットワーク分析に注目されている。社会的ネットワーク分析は「人の行動はその人が関係する様々なつながりによって誘発される」というスタンスに立ち、複数人と関係を持つことで見出すことができる「創発特性」を探ることなどに使用される。組織分析で使用されることが多く、有名なところではアメリカ合衆国でテロリスト、ゲリラ活動の特定のために、メールなどから派生する人間関係をベースにした社会的ネットワーク分析が用いられている。

ワークショップでは林一雅氏(東京大学)より、社会的ネットワーク分析の基本的知識である、社会学や人類学などの学問的背景、専門用語の説明などがあり、最後に分析ツールとして Agna と Pajek という2つのツールの紹介があった。メッセージの数、その宛先などをデータにして、グラフを作成し、該当するコミュニティ内のコミュニケーション関係を可視化することができることをデモを踏まえて説明された。また、住政二郎氏(流通科学大学)より、「アクセス解析とネットワーク分析を利用した外国語教育研究」と題して、住氏の研究成果について発表があった。住氏は Google Analytics と統計解析用プログラム言語である”R”、Pajek を用いて、学習管理システム上に展開されている教材利用について、学生間だけではなく、どのような学生がどのような教材をどれほど利用しているのか社会的ネットワーク分析を使用することで、教材利用に積極的な、教室内内で中心になっている学生を見出し、授業設計や学習支援の方向性を検討しているということであった。

住氏の発表後は参加者でグループを組み、グループ内で社会的ネットワーク分析がどのように教育利用できるか議論を行い、最後に各グループから議論された内容について発表があり、eラーニングにおけるドロップアウト予測などへの適用可能性などアイデアが出された。

以上のようにソーシャルメディアを用いた教育・学習環境では教員、友人関係だけではなく、教員から提供される教材へのアクセスも重要な学習過程と判断できるため、社会的ネットワーク分析は1つの有効な評価法と思われる。これからの研究成果に期待したい。

参考文献

安田雪 「つながり」を突き止める 入門！ネットワークサイエンス 光文社新書

安田雪 ネットワーク分析 何が行為を決定するか 新曜社

(文責 教育支援システム研究部門 山田政寛)

○●○ アカンサス FD にて FD 関連情報を掲載しています ○●○

アカンサスポータルにて FD 活動に関する研究、他大学の実践、セミナーなどの情報を掲示しています。「厳格な成績評価」を「TA 活用」を中心に情報を充実化させておりますので、皆様の FD 活動にご活用頂ければ幸いです。アカンサスポータルの時間割内にある、「その他情報」の「時間割」リンクをクリックしていただきまして、「アカンサス FD」をクリックしていただきますと、本センターが蓄積しました FD に関する情報をご覧いただけます。今後、本学の直近の FD 課題、活動に関する話題を中心に掲載していきます。どうぞよろしくお願いいたします。

○●○ 北陸三県合同フォーラム開催のお知らせ ○●○

12月18日(土曜日)13時15分より戦略的大学連携支援事業採択プログラム 北陸三県合同フォーラムがしいの木迎賓館で開催されます。北陸三県の戦略 GP 総仕上げの成果として、地域還元型の教育実践、教育環境に関する成果が報告されます。是非、ご参加下さい。

テーマ：戦略 GP 採択プログラムの成果と展望

日時：2010年12月18日(土曜日) 13時15分～(受付開始：12時45分)

会場：石川県政記念しいのき迎賓館 3階 セミナールーム B (定員100名)

プログラム：

13時15分 あいさつ

13時20分 基調講演 演題「地域社会における大学連携に向けて」

慶應義塾大学 特別准教授 伊藤健二 氏

14時30分 各県戦略 GP 採択プログラムの成果について(各20分)

「大学コンソーシアム石川を中心とした共通の教養教育機関と ICT 教育支援体制の構築」

金沢大学 古畑 徹

「地域人材育成に向けた SRM 手法による教育の質保証」

富山大学 山西 潤一

「個性的な地域創生のための学習コミュニティを基礎とした仮想的総合大学環境の創造」

福井県立大学 山川 修

15時40分 パネルディスカッション 「これからの大学連携に向けて」

司会：鹿野 勝彦(小松短期大学長)

パネラー：基調講演者+各報告者

(16時45分終了予定)

お申込み方法

大学コンソーシアム石川 e 教育支援センター e-support@ucon-i.jp までメールでお申し込みください。件名を「合同フォーラム申し込み」とし、本文に、ご氏名・ご所属・希望会場(しいのき迎賓館・富山大学五福キャンパス共通教育棟)をご記入頂き、12月15日(水曜日)までお送り下さい。